

# 第11回糸魚川市教育委員会定例会会議録

(平成30年9月25日)

- 1 日時 平成30年9月25日(火) 午前10時から
- 2 会場 糸魚川市役所 庁議室
- 3 出席委員 教育長 田原 秀夫  
教育長職務代理者 佐藤 英尊  
委員 永野 雅美  
委員 楠田 昌樹  
委員 蘆本 修一
- 4 欠席委員 なし
- 5 委員以外の出席者  
教育次長兼こども課長 井川 賢一  
こども課 課長補佐 磯野 豊 係長 田代 正人  
こども教育課 課長 石川 清春 参事 泉 豊  
課長補佐 松村 伸一  
生涯学習課 課長 小島 治夫 課長補佐 磯貝 恭子  
文化振興課 課長 磯野 茂 課長補佐 木島 勉  
博物館 館長補佐 中村 淳一  
市民会館 館長補佐 猪股 和之  
産学官推進企画幹 久保田郁夫  
書記 こども課主査 仲谷 貴子
- 6 報告  
報告第 25号 糸魚川市立学校共通評価項目について  
報告第 26号 規則等の制定・改正について  
報告第 27号 各課・機関所管事項について

7 協 議  
協議第 3号 高校を核とした地方創生について

8 会議録署名委員の指名 1番 永野委員

9 傍聴者 1名

田原教育長

これより第11回教育委員会定例会を開催する。  
今日は議事の進行を報告と協議の順を入れ替えて、先に協議を行う。

田原教育長

これより協議に入る。高校を核とした地方創生についてである。4月から前海洋高校長の久保田郁夫氏を産学官推進企画幹としてお迎えしている。ちょうど半年が経ったが精力的に動いていただいている。今日は、久保田企画幹からこれまでの取組状況等について話をしていただく。

久保田企画幹

(資料に基づいて説明)

田原教育長

新しい時代において高校や地域の存続のために必要な施策を国が示したものである。糸魚川市においても同様の課題があり取り組んできているところである。

今ほどの説明について、質疑はないか。

鶴本委員

4月から久保田企画幹をお迎えし、活躍の様子はお聞きしていたが、実際に具体的な話を聞く機会を得てありがたかった。

糸魚川市では0歳から18歳まで途切れなく、地域全体で育てようという理念に基づいて子ども一貫教育に取り組んでいる。数年前からはコミュニティスクールにも取り組み、現在はすべての市立学校で導入や準備を行っている。さらに高校においてもコミュニティスクールが始まることによって、本当に0歳から18歳までの一貫した動きが確立されるイメージを持つことができた。

私見ではあるが、地域コミュニティの中核は教育コミュニティなのではないか。教育コミュニティがあつての地域コミュニティであると考えているが、企画幹のお考えはいかがか。

久保田企画幹

私も同様に考えている。「人」があつての「まち」である。まちに必要な人材は、地元で育成するということが原理原則であると考えている。

鶴本委員

こういった話し合いを様々な立場の人たちがフリーに話をし、知恵を出し合うことが必要なのではないかと考えている。ぜひ、

久保田企画幹 田原教育長	企画幹にそのリーダーシップを発揮していただきたい。 私の出来ることを精一杯、務めていきたい。 先日、教育委員会協議会の中でも話があったが、所管課だけの事業として取り組むだけでなく、他課などとの連携の中で人材を育成していくことが重要であると考えている。今までも高校も一緒に連携していたが、今後は、より深い関わりの連携になっていくということである。
久保田企画幹	今年7月の教育懇談会で当時の文科省初等中等教育局の木村直人参事官からコミュニティスクールについてご講演をいただいた。木村参事官は国公立大学の関係者が出席した「高校における地域人材育成×大学との連携サミット」の中で、当市の考えていること、進む方向性と同じ趣旨の話をされている。国の考えと市の考えがイコールであるということで、まっすぐ進んで行けると思っている。
永野委員	県立高校等再編整備計画の話が出た時に正直、とても不安が強かった。しかし、今日、久保田企画幹の話をお聞きし、とても前向きな気持ちになることができた。今後とも指導をいただきたい。
田原教育長	今後とも報告できる内容がある場合には、久保田企画幹から改めて報告をしてもらう。
田原教育長	報告第25号糸魚川市立学校共通評価項目について、事務局の説明を求める。
泉参事	(資料に基づいて説明)
田原教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
鶴本委員	今年度前期の状況は分かったが、昨年度、一昨年度と比較してどのような傾向となっているか。
泉参事	昨年度との簡単な比較になるが、「先生は困ったとき、相談にのってくれる」については、肯定的な回答が多く、子どもたちの先生への信頼度は高まっている。また、「学校にいじめや暴力がない」については、少しイエ、はっきりイエが増えている。これについては二通りの考え方があり、一つには本当に暴力があるというもの、もう一つには暴力に対する子どもたちの意識が高まっているというものである。担当課としては後者の見方をしている。理由としては、暴力を理由とする毎月のいじめ報告の件数が多いことである。 子どもたちが先生への信頼度を高めながら、暴力に対する意識も高めているというところである。
楠田委員	アンケートは無記名であるか。
泉参事	無記名で行っている。

田原教育長	報告第 26 号規則等の制定・改正について、事務局の説明を求め る。
井川教育次長	前回の教育委員会定例会でもご説明のとおり、10月1日より、 子ども医療費、ひとり親家庭等の医療費の入院費の自己負担分1 日あたり1,200円を無料化するものである。それぞれの規則につ いて、所要の改正を行ったものである。
田原教育長 委員	今ほどの説明について、ご質疑はないか。 (「なし」の声あり。)
田原教育長	報告第 27 号各課・機関所管事項について、事務局の説明を求め る。
磯野課長補佐	こども課 所管事項報告
泉参事	こども教育課 所管事項報告
磯貝課長補佐	生涯学習課 所管事項報告
木島課長補佐	文化振興課 所管事項報告
磯貝課長補佐	図書館 所管事項報告
中村館長補佐	博物館 所管事項報告
猪股館長補佐	市民会館 所管事項報告
田原教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
靄本委員	こども教育課の不登校対応についてである。ひすいルームに行 ける子どもが多くなっている。これは良いことだと思っている。 子どもが多くなって、学習保障や活用によってスタッフが困って いるようなことはないか。
	また、「結の会」の活動の様子はどうか。
石川課長	ひすいルームについてであるが、多い時は7人が行っている。 個別の学習対応はできていない。教員免許を持っている職員が対 応をしている。ひすいルームは安住の地ではなく、学校へ行くた めのステップであるため、個別対応するところまでは考えていな い。しかし、これまで、全く外へ目が向かなかった子どもがひす いルームに通えている状況があることも事実である。学習対応が できるように教員免許を有する職員を配置していきたい。
	「結の会」も順調に進んでいる。保護者同士がつらい思いや前 向きな姿を共有することによる効果は大きいと捉えている。
靄本委員	ぜひ、「結の会」については継続して実施してほしい。
永野委員	先日、陰山英男先生と懇談する機会があった。陰山メソッドの 取組みについて、学校での取り組みはしていないが公民館で取り 組むことが学力向上につながっているとの話があった。土曜自習 室などでも取り組んではどうか。
磯貝課長補佐	土曜自習室は自習室であるため、子どもたちが宿題やテキスト などを持参して学習している。それぞれの学習が終わると手持ち

永野委員

無沙汰になる子どもたちもいるので、百ます計算の問題を印刷して置いている。親子で競い合っている姿もみられる。

磯貝課長補佐

百ます計算だけでなく、漢字ドリルなどもあわせてできるように準備してほしい。陰山先生は語彙力の重要性もお話されている。ぜひ、お願いしたい。

対応していきたい。

11:00 終了

## 10 次回教育委員会定例会開催日

平成30年10月23日（火）午前10時より

平成30年 9 月25日